

平成16年度 大学院工芸科学研究科博士前期課程 学位記授与式
学長告辞

今日、ここに、修士課程を無事終えられた387名の皆さんに対し、心からお祝いを述べたいと思います。また、皆さんの勉学・研究を支えてくれた、ご家族を初めとする多くの方々に対し、敬意を表する次第です。また、外国から来られ、今日の修了式を迎えられた留学生の皆さんに対しても、心からの祝福を送りたいと思います。

京都工芸繊維大学は、昭和63年に工芸科学研究科を設置し、昨年までに、3850名の修士号取得者を生み出し、多くの知的財産を着実に蓄積してまいりました。本日は、皆さんに、3851号から4237号までの修士の学位を授与させていただきましたが、皆さんの研究業績は、本学の新しい知的財産として付け加えさせていただくことになります。そして、皆さんの後からやってくる学生の研究のために、また、それぞれの学問分野の新たな展開のために、さらに、技術革新や新たな産業の創生の素材として利用されることになります。

皆さんは、これまで勉学や研究において様々な困難に遭遇したことと思いますが、それを粘り強い努力によって克服してきました。皆さんの中には直ぐに社会にでる人もいるでしょうし、これから博士課程で更に研究に従事する人もいるでしょう。あるいは、祖国に帰り、祖国の発展のために働く人もいるでしょう。それぞれの将来計画の実現に向け、勇往邁進されることと信じています。その際、この修士課程での研鑽の成果を十分に生かし、人生の新しい段階を切り開くよう一層奮励努力されることを祈って止みません。

皆さんの新たな出発にあたって、一人一人が社会の中でどの様に自分の道を進んでいくべきかということについて、先輩として、一言述べさせていただきたいと思います。

皆さんは、修士課程において専門知識に接し、それぞれの研究テーマを深められたことと思います。その際、長い時間の中で、多くの先駆的な理論が淘汰されて、より真実に迫る理論が残っていく過程、あるいは、逆に、発表当時は無視され反論を受けた理論が、時代の変遷の中で検証され支持され、表舞台にでてくる過程を目の当たりにされたことと思います。

科学者というものは、自分の考えを発表すると、多くの反論と障害に出会います。一つの仮説が提案されると、それを検証する様々の理論、また逆にそれに抗する反対の理論が提案されます。こうして、何度も何度も検証されて、正しい理論だけが残っていきます。このような状況は、研究の世界だけに見られるものではありません。どのような仕事においても、新しい考えには、必ず反論があります。新しい考えには、さまざまな人が反発し、これを受け入れることを拒みます。しかし、本質的に正しいことは、水が高きから低きに流れるように、必ず残っていきます。

ここで私が申し上げたいことは、遠い目標をもち、その目標に向かって、着実に歩を進めることの重要性です。今日の社会では、あらゆる分野で、年功序列・終身雇用が廃止され、成果主義によるシステムが導入されています。このことは

大学においても例外ではありません。成果主義のなかで、一人一人の人間が、一つ一つの研究科が、さらに一つ一つの大学が信賞必罰的な評価を受けることになります。どのように評価をするのか、あるいは、どのような賞罰が与えられるかは、それと関わる人々に難しい問題を突きつけることになります。

賞罰の問題は、心理学では「効果の法則」として知られています。すなわち、「結果として賞を与えられた行動は促進され、罰を与えられた行動は抑制される」という法則です。成果主義は、社会や集団が望ましい行動に対して賞を与え、そうでない行動に対して罰をあたえることによって、社会や集団の利益を確保しようとするものです。

しかし、賞罰はその与え方によって人々に強い心理的ストレスを課すものです。一般に、賞はよいものであると考えられていますが、人間の心理に与える効果は必ずしもよいものばかりではありません。応報として賞が与えられた人には、賞への固着がおこるといわれています。このような賞罰の悪影響をさけるために、賞罰は、その人の行動が、その人がもっている遠い目標に対して適切であるか否かを示すサインとして与えられることが望ましいとされています。

常に自己評価を求められる成果主義の社会では、人々は強いストレスにさらされるわけですが、これを乗り切る方法は、一人一人が遠い高い目標をもつということではないかと私は考えます。自分の中に遠い高い目標を持つことによって、社会や集団、あるいは、他の人々からうける評価を冷静に受け止める余裕がでてきます。遠い目標のためであれば、目先の失敗や非難に耐える力もでてくると思います。

皆さんは、京都工芸繊維大学で研鑽を積まれ、広い視野をもつことができていると確信いたします。大学で修得した様々な知識、大学で得た様々な人との出会いを基に、皆さんがそれぞれに遠い高い目標をたてて、これからの人生の中で諸問題に取り組んでいかれ、それぞれの目標の実現に向けて邁進されることを信じています。

最後に、皆さん一人一人の将来が幸運に恵まれ、それぞれに悔いの残らない人生であったと総括ができるような人生を送られることを心から祈念し、私のお祝いの言葉とします。

平成17年3月25日
京都工芸繊維大学長
江島義道